

第2回ZOOM寺子屋の感想

これまでの対面クラス授業で感じていた課題、クラス内のレベル差をどうするか、自律学習の促し、について、オンラインの非同期型をうまく利用する知見をいただき、大変やる気が出ました。今週から対面授業が始まることになったので、遠隔授業の実践の場がプライベートレッスンだけになってしまいましたが、プランA、プランB、プランCくらいまでいつも用意して、引き続きこれまでの課題を考えつつ、楽しいクラス授業をめざしてがんばります。

振り返れば、コロナに振り回され、ノウハウを迫うことにばかり時間をとられていたように思います。現場は待たないしなので、考えながら走らなければならない。その「考える」べきことが、今日、尹先生がお話されていたことなのだと感じました。また、今回のような大きな変化は、自分の教授活動を見つめ直すチャンスであり、ともに学ぶチャンスでもあるということに気づきました。たいへん有意義な会でした。ありがとうございました。

気が付かなかったこと、知らなかったことがたくさんありました。やはり、知らないというのは回避できることなので知る努力、考えることをやめないことなど、もっとできることがあると思いました。私たちはどこまでも学習者の学びの手助けがどのような形でできるのかを考え、実行していかなければならないですね。思っただけならだれでもできる、実行して反省することの積み重ねしかないかと再認識しました。ありがとうございました。

学びを止めないために、小学校から大学まで一斉にオンライン授業が始まった年度末と新学期。オンラインの場はヒエラルキーがなく平等であるし、チャンネルさえ開いておけば、学習者同士の活動も活発に行われ、学習者が望む自律的な学びが得られるということがよく理解できました。初級、初中級の日本語のクラスで教師が一方的に教えることなく、対面授業と両立していくステージにかわって行っても、大丈夫なような知識を教えていただいたように思います。

本日はありがとうございました。まず、「学習者のニーズ」の分析方法をクラスの横並びの先生方と相談してみます。今期はちょうど経験豊富で、工夫好きな先生方と組ませて頂いているので、今がチャンスです。また、実はある先生から「日本語教師の仕事とは」を考えるという宿題が出ているのですが、言語化してお伝えしても、私の信念が伝わらないとやり直しになっています。ずっとずっと気になっているのですが、深く考えることが難しく、進まずにありました。しかし、今こそ私自身が過去に取り組んできたことを振り返り、私自身の軸を言語化しなければならないと痛感しました。これから日本語教育界に大きな波が来ても、チャンスを広げられるように、今こそ書き出して言語化してみます。今は誰にでも何でも相談できます。今日から行動しよう！というマインドになりました。ありがとうございました。

今まで自身が海外で日本語を教えることで日本文化・日本語のグローバル化の一翼を担っているつもりでいました。ICTの発達によって、語学の授業においても遠隔授業の可能性が格段に上がっていること知ることができました。今後、対面・非対面にかかわらず「学び」が継続できるよう、自身の努力が必要と思いました。

オンラインが始まった3月には、機器の使い方などで、毎日がパニックでした。が、徐々に慣れ、オンラインだからこそできる授業やメリットを学生とともに考え、進めています。が、今日のお話を置きし、曇っていて見えない状態だった点などが、すうっと明るくなりました。今後、オンラインだからこそ向き合っていける授業を考え、みなさんと共有し、進めたら、、、と思います。いい機会をいただけたと感謝申し上げます。

多すぎず少なすぎずの楽しくにぎやかなオンライン講義でした。ですがやはりどうしても双方向になり難い環境であることを感じました。実際に対面するならば、ほんの僅かな仕草や空気、一挙手一投足でも共通の空間で行われる動きで、「やり取り」を感じられるものが、オンラインではできなくなってしまう。

とはいえオンラインでも便利なところはたくさんあるわけですから、長所短所を分析し、新たなツールとして使い方を模索したいと思います。

また、コロナ以前、コロナ下、コロナ後などの局面別に課題を考えることができたのはとてもよかったです。

ところで、日本語教育とは別の場で、オンラインコミュニケーションについて考えさせられることがあり、こちらはオンラインをうまく使えばいいのにほとんど動きがないといった状況で、歯がゆく思っていたところです。

世間では（日本では？）コロナ禍だから致し方なく使い始めた人が多かったと思いますが、逆転の発想で、おかげで新しいツールに目覚めることができたと思えるようになれば良いなと思います。

ユンさんの熱い思いが言葉に込められていて、胸がいっぱいになりました。

オンラインかなり前からやっていますが、今回の状況にあたって自分には何が出来るかをとても考えました。ユンさんをはじめ、皆さんがどんどん動かれているのを拝見して、日本語教育全体が1つの大きなコミュニティになり支え合える世界も夢じゃないなと感じています。ありがとうございました。

昨日はありがとうございました。授業の本質を考えさせられる時間となり、今までやってきたことを見直すきっかけになりました。

大変有意義な時間を共有させていただきました。講演内容も時間構成も十分満足のいく物でした。ありがとうございました。「三密」を避けるためのオンライン授業は今だけです。この形態が語学教育のスタンダードになることはありませんが、対面、オンラインのメリットでメリットを理解した上でのハイブリッドがこれからの主流になると思います。「語学教育」と大学等での「一般教科」の求められているソースは基本的には違うため分けて考える必要があります（共通項もありますが） 今回の新型コロナは教育の世界もドラスティックに変化させましたが、世界の潮流に乗り遅れることなく日々精進していければと改めて感じました。素晴らしい講座をありがとうございました。

オンライン授業に切り替わったからといって対面授業で行っていたテストは実施する必要はないとは思えない。またフィードバックをしなければ学生は良かったことできていないことなどを把握できないなど今後どのようにしていけばよいのかというヒントが欲しくて参加しました。しかしこれらの思いや考えは教師の教えているのだからどこまで伝わったか確認したいという教師側の不安の表れとも考えられることを講義を受けて気づきました。受け取る側の学生をもっと信じてもいいのではないか。という気持ちになりました。ありがとうございました。

コロナ禍で学生も教師も否応なくオンライン授業に移行せざるを得ない状況で、試行錯誤の連続の日々ですが、尹先生・嶋田先生を中心に皆さんの奮闘ぶりを知ることができ、何より気持ちが落ち着きました。

「学生とフラットな関係が作れる」というオンライン画面のメリットを気づかせていただきました。対面に戻ってもオンライン授業で得たその良さをできるだけ活かそうと思っています。

夢中で取り組んできたオンラインレッスン、教材作りやら研修やら皆さまと一緒に全力投球してきて、あっという間に数か月が過ぎました。おかげさまで、今日はとても良い自分のまとめと振り返りになりました。今日伺ったキーワードを参考に、何か工夫の余地は必ずあると思って、これからも楽しく取り組んでいきたいです。そして、燃え尽きないように、というお話も頭の片隅に置いておこうと思います。今日は仕事にも人にも丁寧に謙虚に取り組んでくださるユン先生のお話を聞いて良い時間になりました。ありがとうございました。そしてこのような機会を作ってくださった、嶋田先生にも感謝いたします。

Zoomでの授業はあくまでもコロナ禍での応急処置にすぎず、対面授業に勝るものはない！と考えていました。しかし「学び方を学べるように教師が学習者をサポートしてあげれば、Zoom授業で学習者同士の学び合う力が伸びる」とのユン先生のお話に、学習者を全面的に信じていなかった自分が恥ずかしくなりました。学習者は日々進化し続けているのですね。変わらなければならないのは他でもない教師のほうでした。

アクラスでの研修のときも遠方から参加する方はいらっしゃいますが、zoom寺子屋だと無理なくそれができるのいいというのが最初の感想です。

でも、寺子屋が始まって最初の時間、対面ではないことで、感じたことや思ったことを隣の席にいる人にちょっと話すということができないので、どこかでちょこっと口にしたことからワイワイ話が広がるといような雰囲気にするにはどうしたらいいのかなと考えてしまいました。時間が経つにつれて、伊先生が一人一人の声をさっと取り上げて丁寧にお返事をくださることで、寺子屋らしく個々の思いをいろいろ安心して話せる雰囲気になっていくのを感じました。

そして、これは普段のオンライン授業でも気をつける大切なポイントだと思いました。

最初に伺ったお話で「オンライン授業でコンテンツベースの知識を伝えて終わりではない。往復が大切だということ。来日しなくても、いろいろな人の日本語が聞ける。それは生かしたい」とおっしゃっていましたが、「いろいろな日本語」を「参加していた方たちの声」だと置き換えると、31日の寺子屋自体がそのように進行していたことに気が付きました。今後、自分自身の今後の授業にもこれを生かさないといけないということを今、改めて思っています。ありがとうございました。

「おもしろければ、学生はついてくる」という言葉が印象に残りました。それは、授業の基本でもあるわけですが、「オンラインだから」と肩ひじ張らず、学生が何に興味を持っているのか、どうすれば、学生は授業に興味を持つのか、学生のゴールのために何ができるのかを考えながら、授業に臨みたいと思いました。私は、学生のことをきちんと見ているか、到達目標はきちんと示しているのか、今回の勉強会は、そんな授業づくりの基本をもう一度、考え直すきっかけになりました。日本のオンライン授業は確かに遅れているのかもしれない。

でも、アイスランドが1位なのに・・・という比較には疑問を持ちました。人口も、おそらく国民に課せられる税金も、教育のシステムも違うでしょう。オンライン教育が発展している国の中には、アメリカもイギリスもフランスも、いわゆる「大国」と呼べる国はなかった気がします。それは、何故なのでしょう？オンライン教育はこれからもっともっと発展していくと思います。他国と比較するのではなく、日本は日本のやり方で、発展していけばいいと思います。ガラパゴス化するのではなく、他国の情報もきちんと取り入れながら、発展していけばいいのではないのでしょうか。

オンライン教育の限界をいかに乗り越えられるか、オンライン教育だからこそ、できることを考えながら、私はこれからもオンライン教育に関わっていきたいと思っています。

勉強会でのお話、ありがとうございました。

学習者の学びを止めない、そして教師の学びも止めないことを忘れてはいけないと思いました。

いやおうなくオンライン授業の波に“飲まれてしまった”と思ったのですが、伊先生のお話を聞き、今こそ自分の言語教育観やありたい教師像を見直す機会であり、その学び（失敗も）を必ず学習者の学びに還元したい！と前向きにとらえられました。

zoom寺子屋で感じた先生方の熱量、一緒にまなび合う雰囲気が、オンライン授業の良さを再現するものだったと思います。

貴重なお時間を本当にありがとうございました。

付け焼き刃でオンライン授業をしているので、伊先生のお話は大変勉強になりました。

「教室授業では知らず知らずのうちに力関係が決まってしまうが、オンラインの場合は教師も学生もフラットな関係を築ける」というのが印象的でした。

オンラインでの分かりやすい授業づくりを知りたいと思っていましたが、実は対面でいかにいい加減な授業をしてきたのかということがよくわかりました。（苦笑）

今後は、オンラインと対面のハイフレックス？も加わるかもしれませんが、今回の学びを活かして色々挑戦していきたいと思っています。

ありがとうございました。

第2回zoom寺子屋に参加し、オンライン授業に対する見方や考え方が変わりました。寺子屋に参加する前は、常に教室授業と比較してオンライン授業を見ていました。例えば、「教室授業ではできるけど、オンライン授業ではできない」とか、「どうすれば、オンラインで教室授業と同じ活動ができるだろうか」といった考え方です。しかし、今回、講師の先生のお話を伺っているうちに、いつの間にか、教室授業と切り離してオンライン授業を見ている自分に気づきました。

オンライン授業のお話の中で心に残ったお話は、「教師と学生の立ち位置がフラットであること」「時間軸を外し、完全習得を目指す学び方」「3種のコミュニケーションチャンネルの使い分け」「学生の進化は早い」といった内容でした。

教室授業と比べていると、どうしても今までの教育観に縛られてしまっていますが、オンライン授業には独自の優れた学びの世界があります。今後は、まっさらな目でオンライン授業に向き合い、実践知やノウハウの蓄積を仲間と共に共有し、オンライン授業を育てていきたいと思いました。

同期型と非同期型それぞれのメリット、デメリットがあることや、EラーニングとMラーニングの違いを知る事が出来ました。オンラインならではの利点もあると思いました。参加させていただき、ありがとうございました。